

沖縄型 金型

13

ライブ(HDD)用の超精密部品や排ガス浄化用触媒を生産するための金剛

2011年1月に、まるま
市の素形材産業向け賃貸工
場に入居した大垣精工（岐
阜県）。ハードディスクド



上田勝弘社長
大垣精工(岐阜県)

企業に聞く

一芽吹く技術

ライブ(HDD)用の超精密部品や排ガス浄化用触媒を生産するための金型

「沖縄工場を設立する前には長崎工場も立ち上げている。理由はリスク分散だ。生産する製品は世界シ

「つながっている」
沖縄で進める事業は。
「ハニカム金型」の生産を

輸送もしない。沖縄工場
向の事業と判断した」
一沖縄では現在、製造業
の集積が進んでいる。

る。人材の多さは魅力だ。
—そのほかの利点は。

エニアが高く、HDDは数々だと40%くらいだ。問題はそのシェアの高さ。本社工場のみでの生産体制では大手顧客の懸念が大きい。エンドユーザーも安心して発注できない」

「沖縄工場も同様の理由だ。県内で設立記念式典を

手掛けている。排ガス浄化用触媒を生産するための大型だ。その触媒は自動車や二輪車などが排出する有害な一酸化炭素などを浄化する部品で、排ガスを低減するグリーン産業の分野で活用される。社会的需要があり、大手からの引き合いも

ら年間約3千人の金型技術者の卵が輩出されている。国内の金型産業は技術競争力の強化に向け、人材の確保が課題だ。一方、人件費削減の目的で海外に工場を設置する企業がいる。しかし中国など海外は教育しても転職を繰り返す。人材育

いじりにたい 材本では、長い時期に暖房費がかなりかかるが、沖縄は一年通して気温の変動が大きくないためコストを抑えられる。今後、人員を増やし事業規模を拡大していきたい」

場でリスク分散

「中国や韓国が金型産業で若手の育成に力を入れて、韓国は文部省

的な加工には工場内の温度を一定に保つことが重要。

などを製造している。上田勝弘社長に沖縄進出の理由や事業展開などを聞いた。

一沖縄進出の理由は。

「沖縄工場を設立する前には長崎工場も立ち上げている。理由はリスク分散だ。生産する製品は世界シ

日本大震災が起きた。リスク分散の重要性を再認識した。沖縄工場設立で、ユニークの懸念を取り払うことができた。沖縄で進める事業は、「ハニカム金型の生産を

ある。取引の規模は拡大すると見込んでいる。沖縄工場はその専用工場としてスタートしている。ハニカム金型は小型の金型製品で、輸送もやすい。沖縄工場向きの事業と判断した

—沖縄では現在、製造業の集積が進んでいる。

成には効率が悪く、かえつてコストがかかつてしまふ。結局は国内でやる方が有利だ。沖縄は年間で3千人の工業系の卒業生がいる。人材の多さは魅力だ」
「そのほかの利点は、「温暖な環境も金型作りに向いてる。製品の安定